

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	三鷹市子ども発達支援センター（くるみ幼児園）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月7日 ～ 令和7年1月23日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数)	30人
○従業者評価実施期間	令和7年1月7日 ～ 令和7年1月18日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数)	16人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な面談と子育て相談の機会の充実	親子通園型の事業所であるため、保護者の皆さんと毎日顔を合わせ、日々話ができることは、事業所の強みだと感じています。 個別支援計画や振り返りの面談、医療面談等、お子さんの成長を共有し、今後の支援についてお話をするなど、一定時間を設けて相談できる機会もあります。	日々の発達支援の内容を保護者の方にしっかりと伝えできるよう、コミュニケーションをこれまで以上に丁寧に行っていきます。
2	家族で取り組む課題の充実	昨年度の冬から、家庭で取り組める教材としてカレンダーワークを取り入れました。 今年度からはより親しみやすくなるよう「わくわく課題」とネーミングし、その他の教材も織り交ぜながら家庭で取り組める課題の充実を図りました。	今年度の実践を踏まえ、より家庭で取り組みやすく、保護者の方がお子さんと楽しみながら行事や長期休暇の見通しを持てる教材を準備します。
3	同年齢の子どもたちとの交流の機会	コロナ禍の数年間行うことができなかった同年齢の子どもたちとの交流事業について、2月に近隣幼稚園の4歳児と交流の機会を設けることができました。	次年度は、交流する年齢を広げ、回数も増やす予定です。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	タイムスケジュールや行事日程の予定が出るのが遅い。	グループ移行後に決まる事や、より良いものに変更したいという思いなどで、お伝えが遅くなることもありました。年度途中から電子の連絡ツール（安心でんしよばと）を利用することで、以前よりスピーディーに連絡ができるようになりました。	グループ移行は、子どもの発達状況に合わせて実施するため、スケジュールが読めませんが、おおよその予測をたてて、事前準備の日を設定します。また、グループが変わるとMTの日程も合わせて変更していましたが、次年度よりグループを固定化し、1年間同じグループでMTを行うことで、年度当初にお伝えする日程で行えるようになります。
2	保護者間の交流やディスカッションする場を増やして欲しい。	勉強会と保護者交流を合わせて行うことを今年度意識的に行ってきました。	次年度は、さらに勉強会の回数を増やすとともに、保護者会や懇談会については一方的に聞く会ではなく参加型の会とし、意見交換やさまざまなご家庭と交流する機会を作りたいと考えています。
3	避難訓練等のマニュアルの周知がなされていない。	毎月、避難訓練やマニュアルに基づいた緊急時の対応等は確認していますが、マニュアルの細かいところを全職員で確認し保護者の皆さんへの周知ができていないことは課題だと考えています。	マニュアルの内容を修正し、より手に取ってもらいやすい、見てわかるものにできるとよいと考えています。 園便りや懇談会などでお伝えする機会も作りたいと考えています。